

『平成27年度中学生ふるさと民泊学習推進事業』活動報告書

【中学生ふるさと民泊学習推進事業】

体験型教育旅行 in 鹿野

山口県長門市立菱海中学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：5学級(内特別支援学級1学級)
- 生徒数：97人
- 教職員数：12人
- 活動の対象学年：1年生29人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 長門市は山口県の西北部に位置し、北長門海岸国定公園に指定される美しい日本海の風景が広がる、人口3万6千人の市である。
- 古くから捕鯨や漁業が盛んで、多くの漁港が点在している。また、温泉にも恵まれ風情も効能も異なる5つの温泉郷がある。
- 地域資源の活用と連携により、住む人、訪れる人みんなが健康で、笑顔あふれるまちづくりを推進している。

③ 連絡先

- 〒759-4504
山口県長門市油谷河原1016番地
- 電話：0837-32-1104
- FAX：0837-32-2950
- Face Book
- 電子メール hishihai1@hot-cha.tv

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 民泊や農業体験等を通して、幅広い年齢層との多様な交流を進め、積極性・協調性・自律性を高め、コミュニケーション力を育て、豊かな人間性と社会性を育む。
- 生徒自身が訪問地域の人々の生活の様子を体験を通して知る中で、自己理解の場として、また自己肯定感の高揚と将来の目標設定の良い機会とする。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 事前の活動
学級活動3単位時間
道徳1単位時間
- 体験活動
学校行事18単位時間
- 事後の活動
学級活動2単位時間
道徳1単位時間

山口県周南市鹿野地区

受入母体：周南学びの旅推進協議会

周南市徳山港1-1

市役所地域振興部

中山間地域振興課

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 民泊や農業体験等を通して、幅広い年齢層との多様な交流を進め、積極性・協調性・自律性を高め、コミュニケーション力を育て、豊かな人間性と社会性を育む。
- ② 生徒自身が訪問地域の人々の生活の様子を体験を通して知る中で、自己理解の場として、また自己肯定感の高揚と将来の目標設定の良い機会とする。
- ③ 友達の良さを見つけ、自分の良さを発揮し、望ましい人間関係をつくる。

(2) 全体の指導計画

- ① 活動の名称 体験型教育旅行 in 鹿野
- ② 実施学年 第1学年 29名
- ③ 内容 山間部の伝統文化を学ぶ、家業体験、民泊
- ④ 教育課程上の位置付け
 - 事前の活動 学級活動3単位時間 道徳1単位時間
 - 体験活動 学校行事18単位時間
 - 事後の活動 学級活動2単位時間 道徳1単位時間
- ⑤ 期間 平成27年5月31日(日)～6月2日(火) 2泊3日

2 活動の実際

(1) 事前指導

- ・ 今回の取組のねらいをしっかりと生徒と確認し合う。不安がある生徒には保護者と連携して不安を取り除くようにする。
- ・ 自分で参加の目的を考えさせ、各自の目標をクラスで発表するなどして、各人の目標を共有し、取組に対する意識の高揚に努める。
- ・ 体験先での不安、宿泊での生徒不安はしっかりと聞きとるように努める。
- ・ 期間中の計画は受け入れ先との兼ね合いがあるが、生徒自身にもしっかりと計画を立てさせ、計画表に記入させるなどする。
- ・ 授業時数は限られるが、事前学習では幅広い準備ができるように仕組み、できる限り「考えさせる」場面設定を設ける。
- ・ 民泊先に対して、自分のことを紹介するプロフィール用紙等を作成し、事前に送付する。

(2) 活動の展開

1日目 『高齢者生産活動センター』 オリエンテーション・体験活動



『コアプラザ鹿野』 対面式



家業体験&宿泊



2日目 『豊鹿里パーク』 体験活動





3日目 各家庭で家業体験



『コアプラザかの』 離村式



(3) 事後指導

- ・ 礼状の書き方を学ばせるために、体験先・民泊先にお礼状を書く。
- ・ 振り返りをしっかりと行い、今回の取組のねらいや自分の目標に対しての評価活動等を行う。
- ・ 活動全般のまとめを行う。学んだことやためになった点などは感想文にまとめる。
- ・ 自分の体験したことを総合的に集約し、周囲に発表させ、表現力をねらう活動を仕組む。
- ・ 次の学校内での学習やさまざまな教育活動に向けて、真剣に取り組もうとする意識をもたせ、事後活動を終わらせる。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域の支援体制

- ・ 山口県周南市中山間地域振興課「周南学びの旅推進協議会」と連携
- ・ 周南市活動助成金の活用
- ・ 山口県中学生ふるさと民泊学習推進事業補助金の活用

- ・ 生徒輸送にかかる経費軽減のため、長門市マイクロバスを利用
- ・ 指導者の確保については、周南市の体験プログラムを活用することで、受入団体に一任

(2) 配慮事項等

- ・ 非常災害の場合も考えて、団体行動の訓練を行うとともに、受入団体との連携を密にし、緊急時の対応を依頼
- ・ 特別支援学級生徒の受け入れ先家庭について、受入れ団体と事前協議
- ・ アレルギー（特に食物）調査を事前に行い、受入団体や民泊先家庭と連絡を密にして対応
- ・ 自己紹介カードを民泊先家庭に事前送付することで、受入れ生徒について事前確認

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- (1) 活動ごとに振り返りをさせ、次の活動に生かしていくように指導した。
- (2) 活動終了後の生徒の感想や民泊先の家庭へのお礼の手紙から生徒の成長をとらえた。
- (3) 事前と事後にアンケートを実施し、生徒の変容の確認を行った。

5 活動の成果と課題

(1) 児童生徒の変容

生徒へのアンケートでは、『鹿野での民泊体験は楽しかったですか。』という質問に対して、全員が「とても楽しかった」「楽しかった」と答えており、今回の体験活動の充実がうかがえる。『家庭の方とどのような活動をしましたか。』という問いに、「座禅」や「果樹栽培の手伝い」、「竹細工」など日常することがない体験をさせていただいており、生徒にとって貴重な経験となった。また「買い物」「料理」といった家事を一緒に行うことで、家庭での自分の役割を見つめ直すよい機会となった。『何か困ったことはありましたか。』に対して、全員が「ない」と答えており、各家庭の方によくしていただいたことが分かる。そして、『機会があったら、また参加したいですか。』という質問には8割の生徒が「参加したい」と答え、生徒が達成感と満足感を得ていることがわかる。

活動を終えての生徒の感想には、2つのキーワードが見られた。1つは『民泊家庭の方への感謝』である。どの家庭においても、生徒に対して大変よくしていただき、ご家族の皆様とのふれあいの中で快適な2泊3日を過ごし、かけがえのない思い出をつくることができた。もう1つは『自分のふるさとを思う気持ち』である。鹿野の自然や地域の方のあたたかさに触れ、自分たちの住む地域「油谷」を大切にしていきたいという気持ちが芽生えてきた。

(2) 生徒感想

- 私はこれまでふるさとを離れることがあまりなかったので、さみしくて不安なこともあったけど、ふるさとのことを大切にしようという気持ちになれたのでよかったです。
- コミュニケーションのとり方や協力し合うことの大切さなどをしっかり学ぶことができました。鹿野地域の人が教えてくれたことを生かし、ふるさと油谷をしっかり大事に守っていきたいです。
- 鹿野のよい所をたくさん見つけられたので、自分の住んでいる長門市にもいい所がたくさんあるんだろうな、と思いました。そして、いつか他の所から来た人たちに長門市のよい所を伝えられたらいいなと思いました。

(3) 今後の改善の取組

- 体験地域の選定
- 実施時期の検討
- 目的の見直し（人間関係づくり、キャリア教育）
- 経費の見直し（移動手段を含む）